

えひめ丸事故被害者
こころのケア対策活動記録

目

次

1 えひめ丸事故の概要.....	45頁
2 宇和島保健所「こころのケア体制」の変遷	45頁
3 宇和島保健所活動の記録.....	46頁
(1) 帰国直後からの対応	
(平成13年2月13日～27日).....	46頁
生徒・乗組員への健康調査	
(平成13年2月16日)	
水産高校への臨床心理士等の派遣	
(平成13年2月16日～27日)	
家庭訪問や電話連絡による被害者支援(アウトリーチ)	
(平成13年2月17日～)	
生徒・乗組員、家族への心理教育	
(平成13年2月22日～)	
地域啓発活動	
(平成13年2月16日～16年8月10日)	
(2) 「えひめ丸沈没事故被災者等支援のための連絡協議会」開催	
(平成13年2月28日～).....	52頁
24時間ホットラインの設置及びパンフレットの作成・配布	
(平成13年3月16日～16年8月31日)	
メンタルヘルス調査開始	
(平成13年4月9日～17年8月1日)	
医師・保健師のハワイ派遣	
(平成13年10月9日～15年2月12日)	
被害者支援(ケア)対策会議	
(平成13年10月10日～)	
(3) 「えひめ丸ケア対策班」設置	
(平成14年4月1日～).....	56頁
生徒達への社会復帰プログラム(リハビリケア)	
(平成14年5月28日～15年3月31日)	

ワドル元艦長来県時の対応

(平成14年12月15日)

新「えひめ丸」出港時の対応

(平成15年5月7日～16年11月13日)

EMDR(脱感作療法)

(平成15年5月21日、10月21日)

「追想の日」の集い

(平成14年2月10日～18年2月10日)

(4) 遺族への支援..... 59頁

家庭訪問・カウンセリング

(平成13年2月17日～)

健康調査

(平成16年11月12日～17年7月18日)

(5) 支援者のメンタルヘルスケア対策

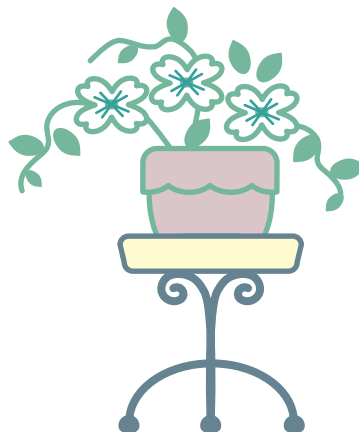
(平成16年9月3日～)..... 59頁

(6) 保健所活動年表..... 60頁

(7) 講演会・学会等発表..... 65頁

4 「えひめ丸ケア対策班」作成

リーフレット及びパンフレット.....66頁



1 えひめ丸事故の概要

2001年（平成13年）2月10日午前8時43分（日本時間）、愛媛県立宇和島水産高等学校実習船「えひめ丸」は、米国原子力潜水艦「グリーンビル」にハワイ沖で衝突され、沈没した。

乗船していたのは、35名で、生徒9名と乗組員17名は救出されたが、生徒4名、指導教官2名、乗組員3名が行方不明となった。

事故から8カ月後に船体が引き揚げられ、8名の遺体は確認されたが、1名の遺体は発見されなかった。

	生徒	乗組員	指導教官	計（名）
乗船者	13	20	2	35
死亡者	4	3	2	9
生存者	9	17	0	26

2 宇和島保健所「こころのケア体制」の変遷

（1）帰国直後（平成13年2月）は、精神保健福祉係の係長と3名の保健師で対応した。通常業務とえひめ丸の対応が重なり、1係4人では対応困難になったため、精神保健福祉センターや御荘支所から臨床心理士及び保健師の応援体制を得ることとした。

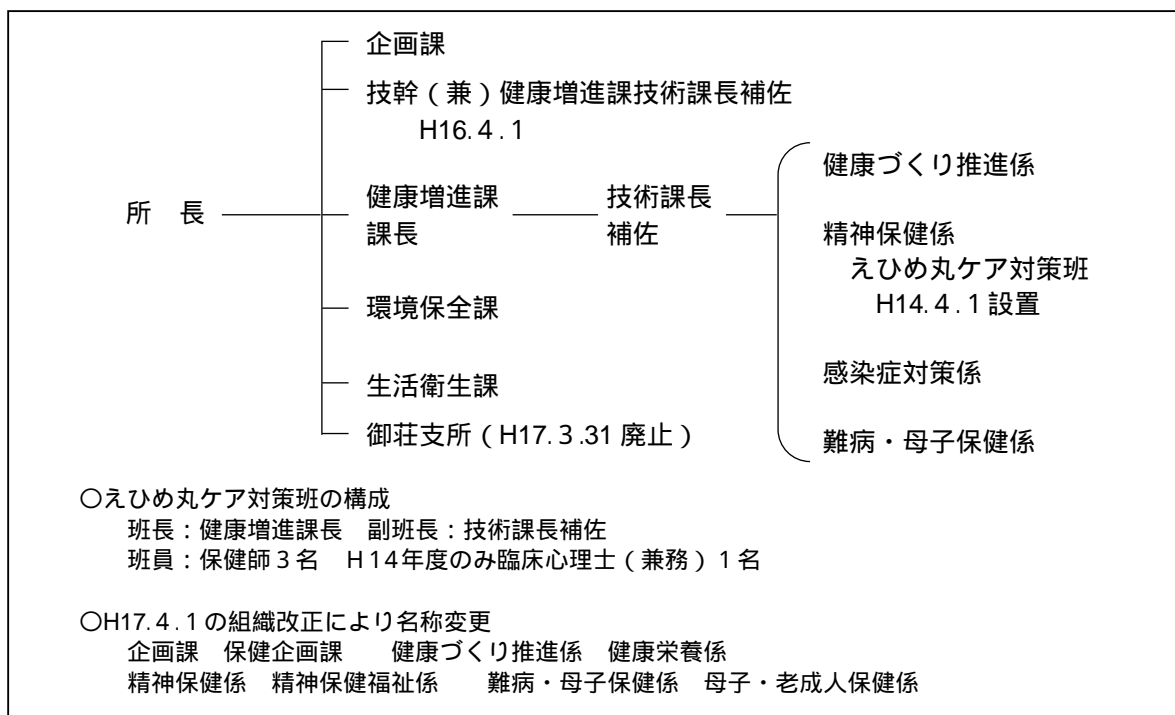
しかし、事故後2カ月目（平成13年4月）には、被害者の深刻な状況が明らかになり、健康増進課内の保健師全員で取り組むこととし、業務別（メンタルヘルス調査・個別ケア等）、対象者別（生還生徒・乗組員・遺族）の役割分担をすることとした。

（2）平成14年度（平成14年4月）からは、新たに「えひめ丸ケア対策班」が精神保健福祉係に設置された。健康増進課長を班長、技術課長補佐を副班長とし、班員は、保健師3名と精神保健福祉センターの臨床心理士1名（兼務配置）で、被害者の「こころのケア」に対応することとした。

さらに、県外のPTSD専門家の応援を受け、生徒は久留米大学医学部の前田正治医師、乗組員は現「兵庫県こころのケアセンター」加藤寛医師に協力を依頼しメンタルヘルス調査を実施した。

（3）平成16年度（平成16年4月）からは、えひめ丸ケア対策班の体制強化のため、新たに保健企画課に技幹職が配置され、健康増進課の技術課長補佐を兼務することとなった。

宇和島保健所の組織



3 宇和島保健所活動の記録

(1) 帰国直後からの対応(平成13年2月13日～27日)

【2月13日(火)】

- 10:00 宇和島地方局長(以下局長)より、保健所対応検討の指示。
- 11:40 本庁保健福祉部より「宇和島水産高校(以下高校)と保健所が直接交渉してはどうか」と助言。
- 13:00 高校より返答。
「保健所へのメンタルヘルスなどの応援は高校から要請する」
- 18:00 メンタルヘルス研修会の開催を決定。
講師「高知医科大学臨床心理士 近藤御風氏」

【2月14日(水)】

- 11:30 高校より生還生徒9名(以下生徒)の健康診断等の相談。
- 13:30 協議の結果、生徒の健康状態を考慮して、2月14日、15日の両日病院を受診。
- 15:00 2月16日午前中にこころのケアを含む健康診断を保健所において実施。
- 16:00 保健所において、保健所職員・指導主事・保健所嘱託医(精神科医)でこころのケアの相談について検討。心理相談は、愛媛大学教育学部・県精神保健福祉センター・南予児童相談所の臨床心理士に依頼。
- 19:00 高校に出向き、2月16日の健康診断(内科診察及び心理相談)の内容について

て説明。受診者の把握は高校に依頼。

【2月15日(木)】

- 9:30 16日の研修会の参加対象者は管内13病院、小・中学校、宇和島地方局管内の職員と決定。
- 10:00 指導主事より16日の健康診断臨床心理士は「愛媛大学教育学部が派遣する」との連絡。
- 10:30 ~ 19:00
健康診断、研修会等の打合せ及び準備。
- 19:10 指導主事より「生徒全員が受診する予定である」との報告。
- 19:30 健康診断の記者発表協議。
保健所での発表は、対策本部(県設置)の発表後。
内容は16日の昼に決定。

【2月16日(金)】

- 8:30 健康診断事前打合せ(保健所、本庁、臨床心理士3名、宇和島病院医師、指導主事)を行い、生徒の状況に応じた面談と決定。
- 9:00 ~ 12:00
生徒の健康診断(こころのケアを含む面談)を実施。
- 12:20 生徒の面談の報告があった後、記者発表の内容について、保健所、本庁、心理相談を担当した臨床心理士3名、指導主事が協議し、記者発表を15:30と決定。
- 13:30 研修会を開催し、145名が出席。
- 15:30 所長の記者会見(7階第1会議室)を実施。
- 15:40 今後のこころのケア方針等について打合せ。生徒の家族について、高校が家庭訪問を行い、その結果要望等を踏まえ、保健所のケア方針を決定。

【2月17日(土)】

- 9:40 精神保健福祉センターの精神科医を高校へ派遣。生徒、在校生、教職員の健康相談を実施。
- 11:10 対策本部より「地元に残っている行方不明者の家族7名について、保健師に訪問してもらいたい」の要望。
- 11:20 所長に要望内容について報告。「宇和島市にいる6名の家族については、本日訪問するとして、すぐに保健師の招集を」との指示。
- 12:50 保健所の6名の保健師が招集できることとなり本日訪問が可能であることを所長、指導主事に報告。
- 13:10 指導主事より「高校も3名の職員が同行できる」との連絡。

- 13:40 訪問する家族6人に電話し、2名連絡が取れ、4名は連絡が取れない。
1名は「来てもらいたい」、あと1名は「来てもらっては迷惑」との回答。
連絡の取れなかった家族についてどうするか指導主事と協議し、すべて訪問。
所長に本日、訪問することになったことと、面談できなかった家族の今後の対応について協議。
- 14:40 保健師2名と高校教諭1名を1班として、3班に分かれ、各班が2名ずつ訪問を開始。(拒否の1名は除く。)
- 16:30 訪問が終了。
2名は面談でき、1名は事前拒否。面談できなかった3名は、他県に行っている1名、家族全員で事故のあったハワイに行っている2名。2名については帰国後再訪問。
- 19:00 所長と指導主事が、本日の訪問結果の報告に高校を訪問。校長をはじめ現在の状況を話し合った結果、高校の教職員の疲労が激しいことから教職員の健康診断が必要と判断。

【2月18日(日)】

- 8:15 所長より局長に17日の行方不明者家族の訪問について報告。
9:30 ~ 18:00
保健所(医師)が保健所に終日詰めるが、緊急性のある対応はなし。

【2月19日(月)】

- 8:40 所長が病院へ高校の教職員の健康診断を要請。
病院長より所長に、本日午後3時から行う旨の連絡。
- 10:30 指導主事より、「高校が生還した生徒の家庭訪問を行ったところ、家族から、『皆が集まれる場が欲しい』との要望があった」。
また、「精神保健福祉センターの精神科医が20日と22日の午前中に往診可能との話があったが、正式に依頼したい」との報告。
- 10:40 所内で『皆が集まれる場所』の設置について協議した結果“家族の集い”という名で23日の午後に保健所のデイケア室で開催。
アドバイザーとして精神保健福祉センターの臨床心理士を希望。
- 11:00 上記について本庁に連絡し、精神保健福祉センター所長への連絡を依頼。
- 14:00 精神保健福祉センター臨床心理士は「22日の午後しか都合がつかない」との連絡があり、22日の午後1時30分から開催。家族への連絡は高校へ依頼。
- 17:10 宇和島病院長より、「校長の心労が激しいのでサポートが必要であり、高校の支援体制をなんとかしなければならぬ。現在高校に派遣している臨床心理士が、2月22日(木)の放課後、教師を集めてメンタルヘルスケアの講習会を実施する」との連絡。

【2月20日（火）】

- 13:30 所内で協議し、教師等を対象としたカウンセリング研修会を3月6日、7日の2日間、「高知医科大学臨床心理士 近藤御風氏」を講師に実施。
- 17:00 保健所は、精神保健福祉係での対応の限界を感じ、課としてこころのケア推進体制をとることを決定。

【2月21日（水）】

- 14:00 所長、職員、指導主事で協議し、保健所だけの支援ではなく高校、病院、関係市町村等との連携が必要であるから「えひめ丸被災者支援のための連絡協議会（後述）設置について検討するための会議を2月28日（水）に開催することを決定。
- 本庁より、「高校への臨床心理士の派遣については、県精神保健福祉センターから月・水・金曜日に、中央児童相談所から火・木曜日に派遣されることとなり、保健師については2名が交代で派遣されることが決定した」との連絡。

生徒・乗組員への健康調査（平成13年2月16日）

生徒9名が2月13日に帰国した。生徒達は、目の痛みや頭痛や吐き気など身体的症状を訴えていた。保護者から「ハワイでは十分な検査や医療を受けられなかったため、健康診断をしてほしい」との要望があり、保健所に健康診断の依頼があった。そこで、生徒達の精神的なダメージを考慮し、心身両面の健康調査をすることとし、学校医のいる病院を受診させるとともに、保健所で健康診断と臨床心理士による心理相談を全員に実施した。

船長を除く乗組員16名が2月15日に帰国した。県外在住の者が12名と多かったため、健康診断については、全員医療機関を受診してもらうよう連絡した。

水産高校への臨床心理士等の派遣（平成13年2月16日～27日）

事故に遭遇していない生徒や教職員に対して、学校で相談やカウンセリングが受けられるように臨床心理士や精神科医師を派遣し、併せて教職員に対する心理教育も実施した。

家庭訪問や電話連絡による被害者支援（アウトリーチ）（平成13年2月17日～）

ア 生徒に対して

当初は学校が訪問を行っており、保健所は、家族や学校の要望に応じ、面接を重ねた。

平成13年4月に行ったメンタルヘルス調査の結果、全員がPTSDと診断された。自殺の危険性も危惧され、前田医師から早急な医療導入と頻回な訪問の必要性を指導されたため、積極的にかかわり始めた。1名の生徒を2名の保健師で担当するよ

うにし、それぞれの生徒の状況にあわせた頻度で対応した。

イ 乗組員に対して

乗組員17名のうち、県外在住者13名、県内在住者4名であった。

当初は、県内在住者について家庭訪問と保健所での面接を実施した。

平成13年4月から乗組員全員が宇和島市近隣7カ所の県立高校に配属され、勤務するようになった。

5月に行ったメンタルヘルス調査の結果、11名がPTSDと診断された。乗組員にとっては、生活環境の変化や学校での処遇等が症状に多大な影響を与えており、定期的な訪問の必要性を専門家から指導された。

県外の乗組員は、職員住宅で生活をしている人も多かったため、各学校を2～3名の保健師が担当して職場訪問という形で対応した。

ウ 行方不明者家族（のちに遺族）に対して

保健所としては、地元宇和島市に残った家族に対し、学校からの要請で、2月17日に保健師と水産高校教諭で同伴訪問したのが最初であった。

後日、帰国した家族に対しては、情報を入手し県内在住者には、家庭訪問をすることとし、県外在住者には、地元保健所へ訪問等の協力を依頼し、毎月の訪問や電話連絡等を欠かさずに行った。

当初は、初めての経験でもあり、関わり方に自信がなく、とまどいながらの対応であった。しかし、10月のハワイでの船体引き揚げ・船内捜索時に常に家族に寄り添って行動してからは絆が深まり、関係性を構築していくことができた。

家庭訪問（職場訪問を含む） (件)

	12・13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
生徒	59	34	13	7	8
乗組員	165	91	20	11	3
遺族	61	52	44	33	19
計	285	177	77	51	30

注) 平成12・13・14年度はハワイでのホテル部屋訪問も含む。

電話連絡（メールを含む） (件)

	12・13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
生徒	201	116	112	43	18
乗組員	129	64	71	66	12
遺族	62	46	44	76	126
計	392	226	227	185	156

注) 家庭訪問・電話連絡とも平成17年度は12月末日まで。

生徒・乗組員、家族への心理教育（平成13年2月22日～）

生還した被害者やその家族は、自分自身（又は家族）の症状に戸惑い、「どう対処すればよいか」「ずっとこの状態が続くのか」将来的にどうなるのか先の見えない不安に悩んでいた。

そこで、事故後の被害者に起こりうる症状、対処方法、今後の見通しなどを正しく理解する機会が必要となった。

ア) 生徒・家族に対して

保健師同席のもと、被害者同士が自由に話し合える場（集い・座談会）を実施すると共に、専門家による心理教育を開催した。あわせて、個別相談も実施した。

イ) 乗組員に対して

乗組員は、平成13年4月から、宇和島市近郊の県立高校に勤務することになり、毎月保健師の職場訪問を実施してきた。その中で「PTSDになったら一生治らない」等の声が聞かれるようになったため、心理教育を実施することとした。

また、新たに採用された乗組員にも、被害者と一緒に乗船することになるため、「PTSDについて」の理解を得るために心理教育を実施した。

	集い・座談会		心理教育		個別相談 回数
	回数	参加者数	回数	参加者数	
生徒	9	48	10	63	212
保護者	17	88	5	42	
乗組員			3	17	12
新規採用乗組員			2	5	2

地域啓発活動（平成13年2月16日～16年8月10日）

ア 研修会（平成13年2月16日～16年8月10日）

被害者（その家族を含む）や事故関係者のこころのケアを円滑に実施するため、事故後の1年は、ケアに関わる関係者を対象とし、2年後からは、関係者だけでなく、地域住民に対してもPTSDやトラウマの理解を得るための研修会を開催した。

イ 地域住民へのリーフレットの配布（平成13年11月）

事故後8カ月を過ぎても、生徒達のPTSD症状は改善せず、過半数の生徒が登校できない状態が続いた。船体の引き揚げやその後の葬儀等に参加する被害者に心ない住民の発言が悪影響を与えることが考えられたため、事件・事故・災害の後、被害者に生じるさまざまなこころと身体の変化について正しく理解してもらうため地域住民にリーフレットを配布した。

年月日	内 容	講 師	対 象	参加者数
H13. 2.16	メンタルヘルス実践に向けての研修会	高知医科大学 近藤 御風	関係者	145
H13. 3. 6	被災者支援のためのカウンセリング研修会	高知医科大学 近藤 御風	関係者	35
H13. 3. 7	被災者支援のためのカウンセリング研修会	高知医科大学 近藤 御風	関係者	35
H13. 5.19	えひめ丸こころのケアに関する研修会	愛媛大学 金澤 彰	被害者等	40
H14. 8.29	こころの健康づくり研修会	武蔵野女子大学 小西 聖子	地域住民	350
	支援者のためのワークショップ	武蔵野女子大学心理臨床センター 木村 弓子	関係者	60
H15.10.16	こころの健康づくり研修会	聖マリアンナ医学研究所 藤森 和美	地域住民	250
H16. 8.10	支援者のためのワークショップ	武蔵野大学 小西 聖子	関係者	30

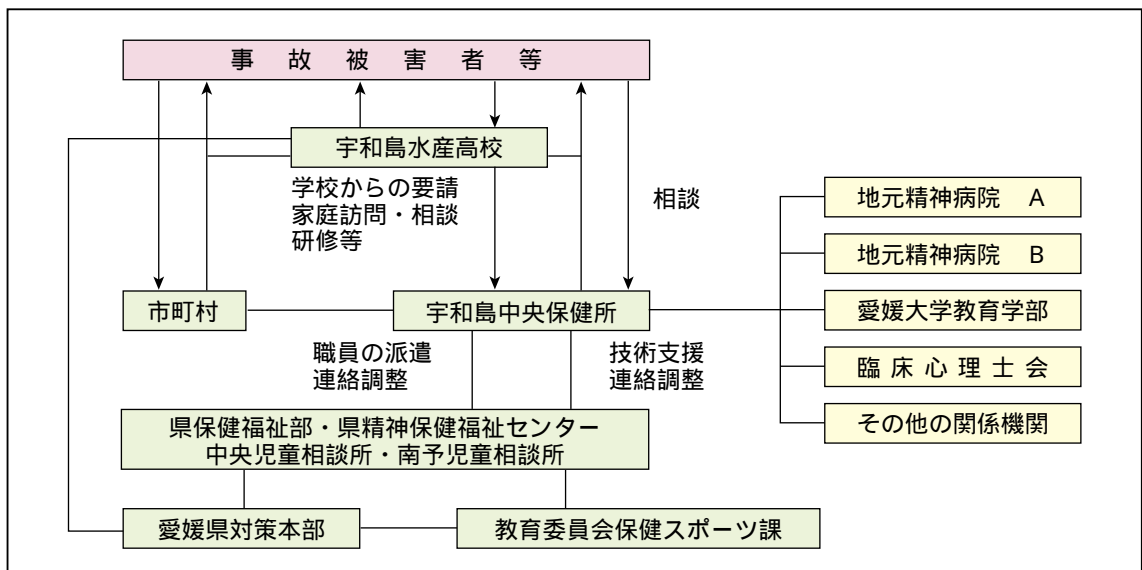
(2) 「えひめ丸沈没事故被災者等支援のための連絡協議会」開催（平成13年2月28日～）

被害者に対する中・長期的な展望にたったケアを進めていくためには、保健所と関係機関が連携協力する必要があると考え、「えひめ丸被災者等支援のための連絡協議会」を開催することとした。会長は精神保健福祉センター所長、副会長を保健所長とした。

マスコミへの情報提供を一元化するため、連絡協議会終了後には必ず保健所長が記者会見を行った。

(構成) 愛媛大学教育学部、聖カタリナ大学社会福祉学部、県臨床心理士会、県精神保健福祉センター、県保健福祉部健康増進課、教育委員会高校教育課、教育委員会保健スポーツ課、南予児童相談所、県立宇和島水産高校、宇和島市（旧津島町を含む）(財)正光会宇和島病院、(財)正光会御荘病院、宇和島保健所

関係機関連携図



年月日	内 容
第 1 回 H13.2.28	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の役割分担（協議会の構成員、関係機関の連携体制等） ・こころのケア対策の具体策（ホットライン設置・パンフレット作成） ・生還者及び行方不明者家族・学校への支援方策等
第 2 回 H13.3.26	<ul style="list-style-type: none"> ・こころのケアパンフレットの作成・配布 ・生還した生徒へのPTSD等診察 ・行方不明家族への対応策 ・協議会の構成員等について
第 3 回 H13.4.25	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のケア（第 1 次メンタルヘルス調査報告…生徒へのPTSDの研修会開催） ・医療費の対応 ・一般住民への啓発（PTSDの理解のための研修会開催）
第 4 回 H13.5.30	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療体制の確保（県精神保健福祉協会との連携） ・生徒第 1 次メンタルヘルス調査報告、今後のケア検討（生徒へのPTSDの研修会開催） ・医療費の対応 ・一般住民への啓発（PTSDの理解のための研修会）計画
第 5 回 H13.6.26	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・乗組員のメンタルヘルス調査結果報告 ・被災者の状況とケア対策（生徒に対する訪問活動、心理教育実施計画、乗組員に対する家庭訪問・個別相談、専門家によるカウンセリング等計画） ・保健医療体制の確保（県庁担当課及び精神保健福祉協会から精神科医療機関等文書依頼）
第 6 回 H13.7.24	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒健康診断及び家族への心理教育実施状況 ・スクールカウンセラー配置、活動状況報告 ・乗組員アンケート調査結果 ・県主催PTSD研修会 ・生徒に対する中・長期的なケアについて ・今後のケアのあり方（船体引揚げ時等とからめて）
第 7 回 H13.9.28	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒心理教育：野外キャンプ、乗組員、不明者に対する状況報告 ・生徒の中長期的展望（久留米大学前田正治医師からの調査報告と提言） ・被害者支援（ケア）対策会議設立の提案
第 8 回 H13.12.5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒第 2 次メンタルヘルス調査報告、卒業後の支援体制（卒業後の地域での拠点づくり）の検討 ・乗組員のアンケート調査結果への対応 ・遺族に対する支援（個別相談体制） ・被害者支援（ケア）対策会議の経過報告（開催状況等）
第 9 回 H14.1.16	<ul style="list-style-type: none"> ・遺族への支援、スクールカウンセラー設置 ・生徒の卒業後の希望（進路による支援内容の検討等） ・今後の支援体制（長期的な支援機関の必要性）
第10回 H14.4.24	<ul style="list-style-type: none"> ・えひめ丸ケア対策班の設置（14. 4. 1～） ・生徒のリハビリプログラムを作成（第 3 次メンタルヘルス調査及び健康診断の結果から） ・乗組員・遺族の今後の対応（県外在住者の訪問及び地元の支援）
第11回 H14.7.9	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のリハビリケア開始 ・乗組員（新「えひめ丸」航海に向けての対応） ・遺族対応（県外在住者の訪問及び地元の支援協力依頼の報告）
第12回 H14.10.18	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のリハビリケア状況報告 ・乗組員（新「えひめ丸」航海に向けての対応、心理教育の検討） ・遺族対応（県外在住者の地元の支援協力報告、専門家相談検討）
第13回 H15.3.26	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のリハビリケア経過報告等 ・乗組員（新「えひめ丸」航海に向けての対応、心理教育等実施報告） ・遺族対応（県外在住者の支援報告）

年月日	内 容
第14回 H15.7.30	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の第4次メンタルヘルス調査及び健康調査の結果報告 ・リハビリケアの経過 ・「生徒の集い」計画 ・乗組員（新「えひめ丸」一次航海状況報告） ・地域啓発活動計画（講演「子供のトラウマ」、講師：藤森和美先生）
第15回 H16.1.7	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒ケアの状況等報告 ・乗組員（新「えひめ丸」二次航海状況報告） ・遺族対応（県内・外在住者の支援報告） ・地域啓発活動報告（講演「子供のトラウマ」、講師：藤森和美先生）
第16回 H16.5.26	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒ケアの状況等報告（第5次メンタルヘルス調査実施） ・乗組員（航海前後の健康相談等状況報告） ・遺族対応（県内・外在住者に対する第1次健康調査実施） ・支援者のためのワークショップ計画
第17回 H17.2.21	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒ケアの状況等報告（第6次メンタルヘルス調査実施計画） ・乗組員（航海前後の健康相談等状況報告） ・遺族対応（県内・外在住者に対する第1次健康調査報告）
第18回 H17.11.28	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒ケアの状況等報告（第6次メンタルヘルス調査実施結果報告） ・乗組員（航海前後の健康相談等状況報告） ・遺族対応（県内・外在住者に対する第2次健康調査報告）

24時間ホットラインの設置及びパンフレットの作成・配布

（平成13年3月16日～16年8月31日）

被害者がいつでも不安や悩みを相談できる窓口として、24時間のホットラインを開設し、75件の利用があった。

また、被害者やその家族、関係者からどう対処したらよいかわからないとの声が聞かれたため、事件・事故・災害の後、被害者に生じるさまざまなこころと身体の変化について正しく理解し、対処するためのパンフレットを対象別（被害者用、在校生用、支援者用、関係者用）に作成し、配布した。

メンタルヘルス調査開始（平成13年4月9日～17年8月1日）

生徒の保護者からは、「不眠や過食、イライラ感が強く子供達の様子が事故前と違う」「どう対処したらいいのか」等の訴えが多く聞かれた。そこで、生徒・乗組員に対して、特に心的外傷後ストレス障害（PTSD）の有無について調査し、今後のケアについて検討することとした。

調査方法は、自分で記入するものとして、日本版GHQ28（一般健康調査質問表28項目版）・IES-R（改訂出来事インパクト尺度）・SDS（自己評価式抑うつ性尺度）を用い、面接では、CAPS（PTSD臨床診断面接尺度）・M.I.N.I.（精神疾患簡易構造化面接法）を実施した。

生徒

調査	年 月 日	受診者数(名)
第1次	H13. 4. 9 ~ 4.11	9
第2次	H13.10.24 ~ 10.26	9
第3次	H14. 4.18 ~ 4.20 H14. 4.22	9
第4次	H15. 3.17 ~ 3.18	9
第5次	H16. 2. 8 H16. 3. 5 H16. 4.12 ~ 4.14	9
第6次	H17. 7. 7 ~ 7. 9 H17. 8. 1	8

乗組員

調査	年 月 日	受診者数(名)
第1次	H13. 5.23 ~ 5.24 H13. 6. 1 ~ 6. 2	17
第2次	H13.11.15 ~ 11.16 H13.12.25 H14. 1. 8 ~ 1. 9	17
第3次	H15. 1.27 ~ 1.30	15

医師・保健師のハワイ派遣（平成13年10月9日～15年2月12日）

ア）船体引き揚げ・船内捜索

事故発生から8カ月を経て、船体の引き揚げが実現した。ハワイでの行方不明者家族（以下遺族）のケアに当たるため、精神科医3名、保健師3名をハワイに派遣することとした。

ハワイ渡航前に家庭訪問や電話連絡で遺族の心身両面の健康状態や渡航にあたり心配なこと等を把握し、ハワイでは、必要時適切な医療が受けられるように医療体制を整備した。

家族が到着すると各部屋を日に2回は訪室し健康状態の確認等を行った。また、自室以外にも相談室を確保し特に遺体との対面や通夜、火葬等の場面に寄り添い体調面に配慮した。帰国後も家庭訪問や電話で連絡し、体調を確認した。

イ）えひめ丸慰霊碑除幕式

平成14年2月10日県主催のえひめ丸慰霊碑除幕式がハワイで執り行われることとなった。被害者にとって「ハワイ」は事故現場であり、症状悪化が懸念された。4名の生徒とその家族、乗組員は出席しなかったが、ほとんどの遺族も出席することによって、緊急時に備えて、精神科医1名、保健師5名を派遣することとした。セレモニー等に同行するとともに、各部屋を訪室し、心身両面の健康状態を把握した。

ウ) えひめ丸慰霊祭

平成15年2月10日県主催のえひめ丸慰霊祭が開催されることとなった。5名の生徒と保護者、乗組員1名、遺族27名が出席するとのことで、精神科医1名、保健師2名を派遣することとした。今回は、各部屋の訪室は行わず、スタッフが部屋で待機することとした。

	年月日	派遣者	活動内容
船体引き揚げ 船内搜索	H13.10.9 }	精神科医師 3名	24時間医療体制の整備 船内搜索協力乗組員のケア 遺体対面時のケア 通夜、火葬時のケア 等
	H13.11.5	保健師 3名	
えひめ丸慰霊碑 除幕式	H14.2.8 }	精神科医師 1名	生徒のケア 遺族のケア
	H14.2.14	保健師 5名	
えひめ丸事故 慰霊祭	H15.2.8 }	精神科医師 1名	生徒のケア 乗組員のケア 遺族のケア
	H15.2.12	保健師 2名	

被害者支援(ケア)対策会議(平成13年10月10日～)

被害者に対するこころのケア対策は、えひめ丸被災者等支援のための連絡協議会で関係者との協議を図りながら、保健所が中心となって実施してきた。

しかし、中長期的展望のケア対策として生徒や乗組員、遺族等、個々の状況に対応できるケアチームの必要性が連絡協議会において指摘された。これを受けて、同協議会の作業部会として保健所、高校、病院、県精神保健福祉センター、県臨床心理士会の担当者等によるワーキンググループを立ち上げ、必要に応じて専門家を交え、「ケア会議」を開催した。

対象	回数
生徒	36
乗組員	20
遺族	22

(3)「えひめ丸ケア対策班」設置(平成14年4月1日～)

生徒達への社会復帰プログラム(リハビリケア)(平成14年5月28日～15年3月31日)

事故後、約1年後の3月生徒達は卒業した。平成14年4月に行った第3次メンタルヘルス調査の結果、著しく改善傾向が見られる者と改善していない者との二極化傾向が目立った。

また、卒業に伴い安心して生徒の集う場がなくなることなどの問題が見えてきた。そこで、

ア 生徒たちの生活リズムの改善と落ちた体力や「楽しむ」気持ちを取り戻すこと。
 イ 卒業後の所属感を失ったことからくる孤立感を防ぎ、自分たちの居場所を確保すること。

ウ ひきこもりやPTSD症状の慢性化を防ぐこと等。

社会生活や就労など自立し主体的に生活していけるような支援が必要となった。

専門家を交えての協議の結果、保健所において社会復帰に向けたプログラム（リハビリケア）を実施した。

開催は週2回、内容はスポーツ活動とミーティングを主体にし、県外研修旅行を1回行った。

回 年・月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2002年 5月	テニス・ ゴカート 5	ミーティ ング 4								
6月	バッテ ィング 5	ミーティ ング 6	卓 球 3	温泉・ボウ リング講習 ・サッカー 観戦 4	ボウリン グ・サッカ ー観戦 4	ミーティ ング 3	フットサ ル 2	ミーティ ング 3		
7月	インター ネット 4	ミーティ ング 2	ミーティ ング 2	フットサ ル 4	ミーティ ング 3	ゴカート 2	ミーティ ング 1	高校訪問 ・ボウリン グ 3		
8月	ミーティ ング 5	研修旅行 6	ミーティ ング 2	ミーティ ング 2	ミーティ ング 1	ミーティ ング 0	インター ネット・ ミーティ ング 4	ミーティ ング 0	海釣り 5	ゴカート ・ミーティ ング 8
9月	ミーティ ング 2	陶 芸 3	インター ネット 1	ミーティ ング 2	料 理 4	フリー (料理) 1	フリー (料理) 2	フリー (料理) 2		
10月	ミーティ ング 1	ミーティ ング 1	ビデオ鑑 賞 1	ミーティ ング 0	ミーティ ング 1	ミーティ ング 0	ミーティ ング 5	ビデオ鑑 賞 2	インター ネット 2	
11月	ミーティ ング 2	ミーティ ング 1	ミーティ ング 1	ミーティ ング 0	ミーティ ング 7	フリー 0	フリー 3	フリー 2	フリー 1	
12月	ミーティ ング 2	ミーティ ング 1	施設見学 1	ミーティ ング 1	ミーティ ング 0	ミーティ ング 2	鍋料理 1	ミーティ ング 1		
2003年 1月	ミーティ ング 2	ミーティ ング 0	ミーティ ング 0	ミーティ ング 1	ミーティ ング 1	ミーティ ング 0	ミーティ ング 0	ミーティ ング 0		
2月	ミーティ ング 1	心理教育 5	ミーティ ング 1	ミーティ ング 0	ミーティ ング 2	ミーティ ング 0	ミーティ ング 0			
3月	ミーティ ング 2	ミーティ ング 1	フリー 0	フリー 0	ミーティ ング 0	ミーティ ング 2				

(数字は参加者数)

ワドル元艦長来県時の対応（平成14年12月15日）

平成14年12月15日、米国原子力潜水艦「グリーンビル」のワドル元艦長（以下艦長）が、えひめ丸沈没事故被害者に対する謝罪のため来日した。生徒が艦長と会うことによるPTSD症状悪化の可能性が考えられたため、保健所としては、艦長の宇和島市来訪当日、久留米大学医学部前田・丸岡両医師を招き、生徒に対して心理教育と個別相談を行った。艦長と会うことに関して、生徒からは「会いたい」との意向があり、医

師の意見としても、「ここで会わないことは将来に悔いを残すことになる。長期的な視点から、生徒のPTSD回復にプラスに働く可能性があるので、艦長に会わせることにしたい。」との申し出があった。

そこで、医師と保健師が同行し、生徒4名、保護者7名が艦長と面会した。面会后、保健所において再度心理教育を実施し、体調のチェック等を行った。また、当日面会できなかった生徒等についても家庭訪問や電話等により体調の確認や、心理的サポートを行った。

新「えひめ丸」出港時の対応（平成15年5月7日～16年11月13日）

平成15年5月7日から、新「えひめ丸」によるハワイ沖への航海実習が再開された。

平成15年・16年には、事故に遭った乗組員とともに生徒が1名ずつ乗船した。航海中にPTSD症状が再燃する等緊急に対応しなければならない事態も想定されたため、保健所としては、学校関係者（船長・指導教官等）、精神科医と乗船中の対応や連絡体制等の協議を行い、さらに、ハワイでの医療体制等を整備し、緊急時に備えた。また、出航当日は、生徒や乗組員の健康相談等を実施し、心身両面の健康状態の把握を行った。

EMDR（脱感作療法）（平成15年5月21日、10月21日）

生徒の中には、入院治療を必要とした者も数名いた。入院中にPTSDの治療のEMDRを実施し、効果があったので、地元宇和島でEMDRを実施してほしいとの要望があった。そこで、久留米大学医師がEMDR治療について、生徒及び保護者に説明し、実施した。

年 月 日	実施者数（名）
H15 . 5 . 21	2
H15 . 10 . 21	4
計	6

「追想の日」の集い（平成14年2月10日～18年2月10日）

被害者は、事故発生の日や時間等といった事故を思い出さざるをえない状況下でさまざまな心理的反応、特に死亡事故では、強い悲しみや無力感等を引き起こすこともあるとされている。

毎年2月10日は、ハワイや水産高校で事故に関連する式典が催される。保健所としては、被害者のPTSD症状が悪化する可能性があるため式典に同席し、式終了後保健所で座談会や保健師による個別相談を実施してきた。

事故後5年目となる平成18年2月10日には、生徒・保護者を対象に、今まで生徒の支援にかかわった専門家を交えて現在の思いや今後のことについて話し合いを持ち、専門家による生徒の個別相談も実施した。

(4) 遺族への支援

家庭訪問・カウンセリング（平成13年2月17日～）

随時、訪問や電話連絡で対応していたが、県内遺族に対しては、1周忌を過ぎた頃から希望に応じて月1回の家庭訪問を続けたことにより、次第に思いを語ってくれるようになった。遺族の中には、うつ症状等に苦しむ者もいたため、医療機関を紹介したり、臨床心理士等によるカウンセリングを開始した。

県外の遺族には、電話等で対応していたが、閉じこもり傾向となり苦しんでいる者もいた。そこで、平成14年7月、県外遺族の家庭訪問と地元保健所訪問を実施し、保健師やカウンセラーによる訪問カウンセリングを開始した。

また、平成17年4月、状況確認と要望を聞くため、12月には、今後の体制の方向性を伝えるため県内外の遺族の家庭訪問を実施した。

(回)

	対 象	家庭訪問	カウンセリング
県 内	5 遺族	1 8 2	5 9
県 外	4 遺族	2 7	7 0

健康調査（平成16年11月12日～17年7月18日）

遺族には、家庭訪問等を中心にケアをしてきたが、体調を崩したり、怪我等の健康障害を訴える声が多く聞かれた。

そこで、遺族の心身両面の健康状態を客観的に把握し、個々の状況に応じたケアを検討するために、県内外の専門家の協力を得て、9遺族（2親等以内）のうち18歳以上の希望者に対して健康調査を実施した。

身体面については、尿検査・血液検査・心電図検査・胸部X線検査・内科診察を、心理面については、CAPS（PTSD臨床診断面接尺度）・M.I.N.I（精神疾患簡易構造化面接法）・グリーフ（悲嘆）診断を専門家により実施した。

調 査	年 月 日	受診者数（名）
第1次	H16.11.12～15	6
第2次	H17. 6.10～12	4
	H17. 7.16～18	4

(5) 支援者のメンタルヘルスケア対策（平成16年9月3日～）

被害者に直接携わる支援者は、被害者の感情を直接受ける等のことから「二次受傷」「燃え尽き症候群」等を引き起こすことが近年の研究によってわかってきた。

そこで、被害者支援をよりスムーズに進めるため、専門家の協力を得て、支援者自身のメンタルヘルス上の問題を早期に発見し予防するための対策をとることとした。

主に、訪問時の支援者自身のこころの変化についてスタッフ間で話し合うが、それぞれの状態について専門家に分析を受けることで、支援者自身のこころの状態を客観的に判断できる場となっており、7回開催している。

(6) 保健所活動年表

事故発生から平成13年度

年月	出来事	生徒・家族	乗組員	遺 族	保健所
H13 2月	事故発生 2/10 生徒帰国 2/13 乗組員帰国 2/15	生徒の健康調査 家族の集い	健康診断	家庭訪問	メンタルヘルス研修会 第1回連絡協議会
3月	終業式	生徒の集い 家族の集い	家庭訪問		カウンセリング研修会 24時間ホットラインの設置 パンフレット配布 第2回連絡協議会
4月	始業式 乗組員、宇和島市 近郊の県立高校に 勤務	第1次メンタルヘルス調査 生徒・家族心理教育	学校訪問	家庭訪問	第3回連絡協議会
5月		生徒心理教育	第1次メンタルヘルス調査	家庭訪問	えひめ丸こころのケアに関する研修会 第4回連絡協議会
6月			第1次メンタルヘルス調査	家庭訪問	第5回連絡協議会
7月		生徒心理教育	学校訪問	家庭訪問	第6回連絡協議会
8月		生徒キャンプ	学校訪問	家庭訪問	
9月	えひめ丸引き揚げ	生徒心理教育	第1次メンタルヘルス調査結果説明 及び個別相談 学校訪問	家庭訪問	第7回連絡協議会
10月	遺体発見	第2次メンタルヘルス調査	学校訪問	家庭訪問	えひめ丸船体引き揚げ・船内捜索に関わるこころのケア班ハワイ派遣
11月			第2次メンタルヘルス調査 学校訪問	家庭訪問	被災者支援のリーフレット作成配布
12月	回収品閲覧	家族の集い	第2次メンタルヘルス調査	家庭訪問	第8回連絡協議会
H14 1月	合同慰霊式 1/10	生徒による献花式 生徒・家族の集い 心理教育(生徒及び家族)	第2次メンタルヘルス調査 第2次メンタルヘルス調査結果報告 及び個別面接	家庭訪問	第9回連絡協議会
2月	えひめ丸慰霊碑除幕式(ハワイ) 水産高校での除幕式	家族心理教育	学校訪問	家庭訪問	えひめ丸慰霊碑除幕式に関わるこころのケア対策班ハワイ派遣 ケア会議
3月	卒業式			家庭訪問	平成13年度愛媛県地域保健研究集会で発表

平成14年度

年月	出来事	生徒・家族	乗組員	遺 族	保健所
H14 4月	臨時職員であった乗組員も全員正規職員となる	第3次メンタルヘルス調査	学校訪問	家庭訪問・カウンセリング	「えひめ丸ケア対策班」設置 4/1～第10回連絡協議会
5月		生徒のミーティング 講話・座談会 保健所でのリハビリケア開始	学校訪問 専門医等による個別相談	家庭訪問	
6月	生還乗組員2名PTSDに公務災害認定	リハビリケア 家族心理教育	心理教育	家庭訪問	
7月		リハビリケア	学校訪問	家庭訪問 県外遺族家庭訪問及び管轄保健所依頼	第11回連絡協議会 平成14年度福岡県精神保健福祉夏期講座で発表
8月	えひめ丸新船進水式	生徒研修旅行（心理教育） リハビリケア 個別相談・座談会	学校訪問	家庭訪問・カウンセリング	こころの健康づくり研修会 支援者のためのワークショップ
9月		リハビリケア	心理教育 県外乗組員訪問	家庭訪問・カウンセリング	
10月		リハビリケア 心理教育	学校訪問 心理教育	家庭訪問・カウンセリング	第12回連絡協議会
11月		リハビリケア 個別相談・座談会	学校訪問	家庭訪問・カウンセリング	
12月	新えひめ丸竣工式 12/10 ワドル元艦長来県 12/15	リハビリケア 家族座談会 ワドル元艦長との面会 個別相談	新えひめ丸竣工式参加 学校訪問	家庭訪問・カウンセリング 県外遺族の訪問及びカウンセリング	
H15 1月			第3次メンタルヘルス調査 学校訪問	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	
2月	えひめ丸事故慰霊祭開催に係るケアのためハワイに派遣 2/9	個別相談 生徒・家族心理教育 家族座談会 家族カウンセリング	個別相談 学校訪問	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等 県内遺族の訪問及び家族面接	えひめ丸事故慰霊祭開催に係るこころのケア対策班ハワイ派遣
3月		第4次メンタルヘルス調査	個別相談	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	第2回日本トラウマティック・ストレス学会で発表 第13回連絡協議会

平成15年度

年月	出来事	生徒・家族	乗組員	遺 族	保健所
H15 4月		生徒ミーティング 家族座談会	新船長と面接	家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	
5月	えひめ丸出港第1 次航海 5/7	乗船時健康診断・個 別相談 個別相談・EMDRの 実施 家族カウンセリング	第1次航海実習に 出発時健康相談	家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	愛媛県警察学校被 害者対策専科で講 話
6月		家族座談会 生徒の集い 個別相談		家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	
7月	えひめ丸帰港第1 次航海 7/7	下船時健康診断 生徒ケア検討会	帰港時健康相談 帰省時電話相談	家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	伊予地区犯罪被害 者支援連絡協議会 で講話 第14回連絡協議会
8月		野外キャンプ・心理 教育 家族座談会		家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	県犯罪被害者連絡 協議会で講演
9月		家族カウンセリング	乗船時の健康相談	家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	兵庫県トラウマ関 連問題セミナーで 講演
10月	えひめ丸出港第2 次航海 10/3	生徒個別相談 EMDRの実施 家族座談会	出発時健康相談	家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	こころの健康づく り研修会 全国保健所所長会 議で発表 日本公衆衛生学会 で発表
11月		生徒・家族カウンセ リング		家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	全国保健師学術学 会で発表
12月	えひめ丸帰港第2 次航海 12/2	下船時健康相談 生徒・家族カウンセ リング 生徒・家族の心理教 育	帰港時健康相談 帰省時電話相談	家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	厚生労働省PTSD研 究班会議出席
H16 1月	成人式 1/3 えひめ丸出港第3 次航海 1/20	生徒の集い 乗船時健康相談 生徒・家族カウンセ リング・座談会	出発時健康相談	家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	第15回連絡協議会
2月	えひめ丸追想の日 2/10	第5次メンタルヘル ス調査 生徒・家族座談会 生徒・家族カウンセ リング		家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	全国被害者支援 ネットワーク春期 研修会で発表
3月	えひめ丸帰港第3 次航海 3/16	第5次メンタルヘル ス調査	帰港時健康相談	家庭訪問・カウンセ リング(県外・県内) 等	第3回日本トラウ マティック・ストレ ス学会で発表

平成16年度

年月	出来事	生徒・家族	乗組員	遺 族	保健所
H16 4月		第5次メンタルヘルス調査	健康相談	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	
5月	えひめ丸国内航海 5/12～20 5/24～26	乗船時健康相談	出発時健康相談	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	第16回連絡協議会
6月	えひめ丸国内航海 6/7～9 6/14～16	家族座談会	出発時健康相談	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	
7月	えひめ丸国内航海 7/7～9 1学期終業式	乗船時健康相談	出発時健康相談	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	
8月		生徒集い	健康相談	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	支援者のためのワークショップ
9月	えひめ丸(ハワイ)前期航海出港9/15	生徒乗船時健康相談 家族個別面接	出発時健康相談	家庭訪問 県外遺族の訪問カウンセリング	支援者支援検討会
10月			健康相談	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	県臨床心理士会研修会で発表 全国学校保健研究大会で発表
11月	えひめ丸帰港 11/13	生徒下船時健康相談	健康相談等	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等 第1次健康調査	
12月		生徒健康相談 家族個別面接	健康相談(電話)	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	地域災害等におけるPTSDに関する専門家研修会で発表 支援者支援検討会 八幡浜保健所地域保健保健師研修会で講話
H17 1月	えひめ丸(ハワイ)後期航海出港1/24	生徒・家族個別面接 家族座談会 乗船時健康相談	出発時健康相談	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	
2月	えひめ丸追想の日 2/10	生徒・家族の座談会		家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	第17回連絡協議会 支援者支援検討会
3月	えひめ丸帰港3/17			家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	

平成17年度

年月	出来事	生徒・家族	乗組員	遺 族	保健所
H17 4月	1 学期始業式乗船式 4/11 えひめ丸国内航海 4/23 ~ 26		健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	
5月		乗船時健康相談	国内航海出港時健康相談 健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	支援者支援検討会
6月	えひめ丸国内航海 6/7 ~ 9 6/14 ~ 16	家庭訪問	国内航海出港時健康相談 健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等 第2次健康調査	
7月	えひめ丸国内航海 7/5 ~ 7 7/11 ~ 18 1 学期終業式	第6次メンタルヘルス調査 乗船時健康相談 健康相談	国内航海出発時健康相談 健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等 第2次健康調査	
8月		第6次メンタルヘルス調査	健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	支援者支援検討会
9月	乗船式 9/1 えひめ丸(ハワイ)前期航海 9/14	健康相談 家族個別面接	ハワイ前期航海出発時健康相談 健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	
10月		健康相談	健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	
11月	えひめ丸帰港 11/14	健康相談	ハワイ前期航海帰港時健康相談 健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	現任保健師研修会で発表 第18回連絡協議会
12月	2学期終業式	健康相談 家族個別面接	健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	
H18 1月	乗船式 1/10 えひめ丸(ハワイ)後期航海 1/23	健康相談	ハワイ後期航海出港時健康相談 健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	支援者支援検討会
2月	えひめ丸追想の日 2/10	家族・生徒座談会 健康相談	健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	支援者支援検討会 こころのケア研修会で講話
3月	えひめ丸帰港予定 3/17	健康相談	ハワイ後期航海帰港時健康相談 健康相談（電話等）	家庭訪問・カウンセリング(県外・県内)等	第19回連絡協議会 予定

(7) 講演会・学会等発表

年月日	名称	演題	場所
H14.3.14	平成13年度愛媛県地域保健研究集会	えひめ丸沈没事故被災者支援と保健師の役割(第報)	松山市
		えひめ丸沈没事故被災者支援と保健師の役割(第報)	
H14.7.31	平成14年度福岡県精神保健福祉夏期講座	えひめ丸沈没事故における宇和島中央保健所でのこころのケア対策 事故発生後、健康危機管理の拠点である保健所はどう動いたか?	福岡県 春日市
H14.12.2	松山市保健所研修会	PTSD～えひめ丸沈没事故後におけるこころのケア等について～	松山市
H15.3.13	平成14年度愛媛県地域保健研究集会	えひめ丸沈没事故被害者のこころのケア報告(第報) 生還生徒に対する取り組みから(誌上) えひめ丸沈没事故被害者のこころのケア経過報告(第報)(誌上)	松山市
H15.3.14～3.15	第2回日本トラウマティック・ストレス学会	えひめ丸沈没事故被害者の支援を通して	兵庫県 神戸市
		えひめ丸沈没事故におけるグリーフケア	
H15.5.29	愛媛県警察学校被害者対策専科	えひめ丸事故に伴う被害者ケア	松山市
H15.7.29	伊予地区犯罪被害者支援連絡協議会	えひめ丸事故に伴う被害者ケア	伊予市
H15.8.21	愛媛県犯罪被害者支援連絡協議会	えひめ丸事故に伴う被害者ケア	松山市
H15.9.12	兵庫県こころのケアセンター トラウマ関連セミナー2003	「実習船えひめ丸」沈没事故における地域精神保健活動	兵庫県 神戸市
H15.10.22～10.24	全国保健所所長会議 第62回日本公衆衛生学会	保健所におけるこころのケア事業に関する研究 保健所における健康危機管理のあり方～えひめ丸沈没事故被害者支援を通して～	京都府 京都市
H15.11.14	全国保健師学会	こころのケアにおける保健師の役割～えひめ丸沈没事故被害者支援を通して～	山口県
H16.2.28	全国被害者支援ネットワーク 春期全国大会分科会	「報道被害とメディア対応」えひめ丸事故被害者のマスコミ対応	福岡県 春日市
H16.3.4～3.5	第3回日本トラウマティック・ストレス学会	えひめ丸沈没事故生還生徒の集団的アプローチ	東京都
H16.10.16	愛媛県臨床心理士会研修会	えひめ丸沈没事故被害者支援について	松山市
H16.10.29	第54回全国学校保健研究大会	第4課題「こころの健康」	福島県 郡山市
H16.12.7	地域災害等におけるPTSD等への精神保健医療対策に関する専門家研修会	えひめ丸事故における保健所の役割	東京都 小平市
H16.12.13	八幡浜中央保健所地域保健師研修会	えひめ丸沈没事故におけるこころのケア	八幡浜市
H17.11.24	平成17年度精神保健福祉に関する現任研修会	えひめ丸沈没事故におけるこころのケア	松山市
H18.2.24	こころのケア研修会	えひめ丸沈没事故被害者の支援を通して～保健所の立場から～	兵庫県 神戸市

4 「えひめ丸ケア対策班」作成リーフレット及びパンフレット

1) リーフレット

リーフレットは、船体の引き揚げや葬儀等に参加する被害者に対する住民のなにげない発言が与える二次的被害を配慮し、災害や事故が心身に及ぼす影響と回復に向けての留意事項や支援のあり方の理解を目的に作成し、被害者が在住する市町村に全戸配布したものである。

2) パンフレット

パンフレットは、事故に遭遇した人々に起こりうる症状の説明と決して1人で悩まないでほしいことを伝えるため。また、支援者に対しては、支えるポイントやPTSDの内容を記載したものである。

(1) 被害者(生還生徒・乗組員)用

(2) 支援者用

